



い け だ ち ひ ろ
(故) 池 田 千 尋 氏

生年月日 昭和 5 年 12 月 14 日生

住 所 田辺市中辺路町野中

昭和 5 年 (1930 年) 12 月 14 日、西牟婁郡近野村 (現田辺市中辺路町野中) に生まれる。昭和 23 年 (1948 年) 3 月に熊野林業学校を卒業後、当時の田辺・西牟婁郡内の小中学校において教鞭を執る傍ら、法政大学に学び教員免許を取得。平成 3 年 (1991 年) 3 月に退職するまでの間、43 年の長きにわたり当地域の学校教育の充実・向上に尽力した。

教職とともに、郷土史の研究に関わり、特に戦前に当地方で発行された新聞「牟婁新報」の研究と復刻版の刊行、ならびに「大逆事件」の研究と犠牲者の顕彰に力を尽くした。

「牟婁新報」は、明治 33 年 (1900 年) 4 月に西牟婁郡田辺町 (現田辺市) で創刊された地方新聞で、社長・主筆の毛利柴庵 (もうり さいあん) は、仏教界の革新に関与した進歩的の信徒であり、初期の社会主義者達との交流も深く、「牟婁新報」には当時の社会主義者をはじめとする革新思想者が多く論陣を張った。

また、同紙の革新的メディアとしてのもう一つの特色は、環境保全・自然保護にいち早く着目し、明治 39 年 (1906 年) からのいわゆる「神社合祀問題」では、宗教の自由・環境破壊の問題として積極的に取り組んだことにある。このとき登場したのが、「エコロジーの先駆者」として知られる博物学者南方熊楠で、熊楠は、柴庵とともに「牟婁新報」紙上に神社合祀政策反対の論陣を展開した。熊楠の自然保護の考え方は、現在も彼が暮らした田辺の地で受け継がれており、平成 27 年 (2015 年) に吉野熊野国立公園に編入された天神崎は日本のナショナルトラスト運動の先駆けとして有名である。

氏は、環境保護、宗教の自由など、現在にも通じる地球的規模のテーマを正面から論じた「牟婁新報」に注目し研究を進めるとともに、脇村義太郎氏 [第 1 回 (昭和 45 年) 田辺市文化賞受賞] 旧蔵資料の田辺市立図書館への一括寄託を主導するなど、同紙の保存とその後の復刻版刊行に尽力した。

また、研究を進める中で、「牟婁新報」を語る上で欠くことのできない「大逆事件」に着目し、その過程で、事件で処刑された曹洞宗の僧侶内山愚堂 (うちやま ぐどう) のほか、大石誠之助や成石勘三郎・平四郎兄弟といったいわゆる「新宮グループ 6 人」の名誉回復、復権に力を注ぐとともに、宗教家として人権問題、戦争や平和の問題の重要性を説いた。

昭和 35 年 (1960 年) 発足の「大逆事件の真実を明らかにする会」には、発足時から入会し、寄稿や会の活動にも精力的に参加するほか、新宮市での「大逆事

第 49 回 (平成 30 年)

件の犠牲者を顕彰し真実を求める会（現「大逆事件の犠牲者を顕彰する会」）」には平成 13 年（2001 年）結成当初から顧問として、また本宮町での「大逆事件の犠牲者の名誉回復を実現する会（現「大逆事件を語り継ぐ会」）」にも平成 15 年（2003 年）結成当初から顧問として、両会への寄稿や講演会に精励するなど、当地域と関わりの深い「大逆事件」の研究と犠牲者の顕彰に尽瘁した。

加えて、氏は、昭和 38 年（1963 年）から平成 19 年（2007 年）までのうち 25 年間、旧中辺路町の文化財審議会委員、市町村合併後は田辺市文化財審議会委員を務め、その豊富な知識と経験を活かし、文化財の保護活動に尽力し、特に氏の専門である歴史分野を礎に、文化財の調査研究に貢献した。

このほかにも氏は、平成 10 年（1998 年）10 月から平成 17 年（2005 年）4 月まで熊野古道なかへち美術館館長を歴任したほか、市町村合併後の平成 17 年（2005 年）から平成 29 年（2017 年）までの 13 年間、田辺市文化賞推薦委員会の委員を務め、本市における文化振興及び田辺市文化賞の発展に大きく寄与した。

(学 歴)

昭和 23 年（1948 年）	熊野林業学校卒業
昭和 38 年（1963 年）	法政大学文学部史学科卒業

(職 歴)

昭和 23 年（1948 年）	5 月	近野村立近野小学校
昭和 26 年（1951 年）	4 月	近野村立野中小学校
昭和 27 年（1952 年）	4 月	上芳養村立上芳養中学校
昭和 29 年（1954 年）	4 月	日置町立日置小学校
昭和 31 年（1956 年）	4 月	上芳養村立上芳養中学校
昭和 31 年（1956 年）	9 月	牟婁町立上芳養中学校（町村合併）
昭和 33 年（1958 年）	4 月	大塔村立三川中学校
昭和 34 年（1959 年）	4 月	中辺路町立野中小学校 中辺路町立二川中学校
昭和 41 年（1966 年）	4 月	日置川町立日置中学校
昭和 42 年（1967 年）	4 月	中辺路町立栗栖川中学校
昭和 44 年（1969 年）	4 月	中辺路町立中辺路中学校（統合による校名変更）
昭和 45 年（1970 年）	4 月	田辺市立高雄中学校
昭和 56 年（1981 年）	4 月	田辺市立上秋津中学校
昭和 60 年（1985 年）	4 月	田辺市立秋津川中学校
平成 3 年（1991 年）	3 月	定年退職

昭和 48 年（1973 年）	11 月	養命寺住職
-----------------	------	-------

(役職等)

昭和 38 年（1963 年）	12 月	中辺路町文化財審議会委員
平成 6 年（1994 年）	4 月	中辺路町文化財審議会委員
平成 10 年（1998 年）	10 月	熊野古道なかへち美術館館長
平成 14 年（2002 年）	9 月	中辺路町景観保全審議会委員 中辺路町環境保全審議会委員
平成 17 年（2005 年）	5 月	田辺市文化財審議会委員
平成 17 年（2005 年）	9 月	田辺市文化賞推薦委員会委員